

5. 所蔵ルートによる登録の実際

CATP-Autoでは、直接所蔵レコードを検索し、登録することもできます。これを所蔵ルートと呼びます。

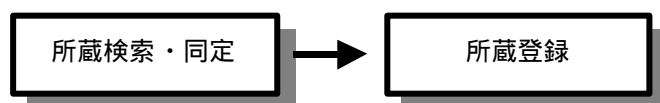
所蔵ルートの処理では、学術雑誌総合目録データを学術情報センターに報告する際の雑誌の所蔵一括更新や、図書の管理換等にもなう配置コードの変更などの作業を一括処理することができます。

所蔵の一括更新や削除の処理は便利な機能ですが、失敗すればデータに重大な損傷を与える可能性があり、危険を伴う作業です。利用にあたっては、十分注意を払う必要があります。

以下、想定される用途毎に、所蔵ルートの処理の具体的な利用方法を説明します。

5.1 雑誌の所蔵一括登録

雑誌所蔵の登録作業では、図書館側のデータベースに存在する所蔵 ID や書誌 ID、配置コードを利用することができます。このデータを検索キーとすれば、書誌検索を行うことなく、直接所蔵レコードを検索・同定することが可能であるため、効率的に作業を行うことができます。



たとえば、従来、学術雑誌総合目録の全国調査時の所蔵一括更新は、磁気テープ等を学術情報センターに提出することによって行っていましたが、これを各図書館が自ら行うことができます。また、調査時の一括更新に限らず、本機能を利用して日常的な雑誌所蔵更新作業を行うことも可能です。

作業を行うためには、図書館データベースから必要なデータを抽出し、雑誌所蔵レコード検索・登録用のアップロードファイルを作成する必要があります。所蔵ルートにおいては、処理内容により次のようなアップロードレコードを作成する必要があります。

- (a) 所蔵レコードの新規登録
検索データ：書誌 ID&配置コード
- (b) 所蔵レコードの修正
検索データ：所蔵 ID または 書誌 ID&配置コード
- (c) 所蔵レコードの削除
検索データ：所蔵 ID

雑誌所蔵登録において、検索・登録データとして指定できるフィールドの一覧を表 5-1 に示します。

表5-1 雑誌所蔵データ処理時に指定可能なタグ一覧

- : 任意に指定可能な項目
- : 所蔵新規登録時の必須項目。(所蔵修正時は任意)

タグ(フィールド)	フィールド説明	検索キー (search)	照合キー (scan)	登録データ
ID	所蔵 ID	(注1)		×
BID	書誌 ID	(注1)		×
FANO	参加組織 ID	×	×	×
LIBABL	略称	×	×	×
LOC	配置コード	×	(注1)(注4)	(注3)
HLYR	年月次	×		
HLV	巻号	×		
CONT	受入継続表示	×		
CLN	請求番号	×		
LDF	図書館定義フィールド	×		
CPYNT	コピーノートフィールド	×		
LTR	ローカルレーシング	×		

(注1) 処理内容により、次の検索データを使う必要があります。

処理内容	所蔵 ID	書誌 ID & 配置コード
(1)新規登録	×	
(2)修正		
(3)削除		×

(注2) 参加組織 ID(検索及び登録データ)は、システムが固定の値を自動的に設定するで、アップロードファイルには指定する必要はありません。

(注3) 書誌レコード ID 及び配置コードは、検索キー及び照合キーに指定されている値が登録データとなります。ただし、配置コードを修正する場合には、登録データとして明示的に指定する必要があります。

(注4) 配置コードはインデックス化されていないので、照合キーとしてのみ指定可能です。配置コードの SCAN は完全一致で行われますので、違う配置コードがヒットする心配はありません(「書庫」と指定して、「書庫」以外に「貴重書庫」などが検索されることはない)。なお、その他のフィールドの SCAN は、部分一致で行われます。

上記の原則に従ってアップロードファイルを作成した上で、処理ルート「雑誌所蔵」を選択し、処理を実行します。基本的な処理ロジックは以下のとおりです。

- (a)書誌 ID (BID) & 配置コード (LOC) による検索を行い、該当する所蔵レコードがヒットしなかった場合 所蔵レコードを新規に登録する。
- (b)所蔵 ID (ID) または書誌 ID (BID) & 配置コード (LOC) による検索を行い、該当する所蔵レコードが1件ヒットした場合 ヒットした所蔵レコードを修正する。

(c)検索の結果、該当する所蔵レコードが複数件ヒットした場合、または所蔵 ID (ID) による検索を行い、該当所蔵レコードがヒットしなかった場合 エラーメッセージを出力し、処理を行わない。

(1)所蔵レコードの新規登録

書誌 ID & 配置コードを検索データとして検索を行い、該当する所蔵レコードがヒットしなかった場合に、所蔵レコードの新規登録を行います(ヒットした場合には、所蔵の修正を行います)。

【例1】

BID:AA10013341 LOC;@ HLV=1-12 HLYR=1981-1997 CONT=+

例1では、書誌 ID (BID) と配置コード (LOC) を指定し、巻号 (HLV) と年次 (HLYR)、受入継続表示 (CONT) データを登録します。‘@’ は、明示的に空値を示す場合に用います。例1のように、空値の配置コードで検索したい場合には、LOC;@ と指定する必要があります。

【例2】

BID:AA14423021 LOC;書庫 HLV=1(2-3),5-10 HLYR=1970-1975 CONT=@

例2も、同様の検索データを指定し、所蔵データを登録しています。この例では、CONT=@ と指定することにより受入継続表示データの削除を行っています。

【例3】

BID:AA14423021 LOC;書庫 HLV=1(2-3),5-10 HLYR=1970-1975

新規所蔵登録の場合、例3のようにCONTフィールドそのものを指定しなかった場合は空値となるので、例2と同じ結果になります。

ただし、(2)でも述べるように、当該検索条件で所蔵レコードがヒットするかどうかかわからず、新規登録となるか修正となるかが予想できない場合には、空値としたいフィールドに対しては空値を示す‘@’を明示的に指定する必要があります。

新目録所在情報システムにおいては、所蔵レコードの新規登録時には、書誌 ID (BID)、参加組織 ID (FANO)、配置コード (LOC) の指定が必須です。CATP-Auto では、アップロードファイルに指示した書誌 ID 及び配置コードが使われます。また、参加組織 ID については、インストール時に設定されたシステム固定の値が使われますので、アップロードファイルに指定する必要はありません。

(2)所蔵レコードの修正

所蔵 ID または書誌 ID & 配置コードによる検索を行い、該当する所蔵レコードがヒットした場合に所蔵の修正を行います。所蔵 ID により検索を行い、ヒットしなかった場合は処理を中止しますが、書誌 ID & 配置コードによる検索を行い、ヒットしなかった場合には所蔵の新規登録を行います。

【例 4】

ID:CA0000098765 HLV=1-12 HLYR=1981-1997 CONT=+

例 4 では、所蔵 ID (ID) を指定して、巻号 (HLV) と年次 (HLYR)、受入継続表示 (CONT) の修正を行います。

【例 5】

BID:AA14423021 LOC;書庫 HLV=1(2-3),3(1-3,4-6),5-10 HLYR=1970-1975 CONT=@ CLN=@ LDF=@

【例 6】

BID:AA23567821 LOC;開架 HLV=5-10,13-14 HLYR=1985-1997 CONT=+ CLN=@ LDF=@

例 5 と例 6 では、書誌 ID (BID) と配置コード (LOC) を指定して、巻号 (HLV) と年次 (HLYR)、受入継続表示 (CONT)、請求番号 (CLN)、図書館定義フィールド (LDF) の修正を行います。修正はフィールド単位で行われるので、削除したいフィールド (空値にしたいフィールド) がある場合は、この例のように空値を示す '@' を明示的に指定する必要があります。

'@' を指示しなかった場合、所蔵レコードの修正を行っても、指示しなかったフィールドについては修正が行われず、修正前のデータがそのまま残ってしまうので、注意してください。たとえば例 1 では、既存レコードの請求番号 (CLN) や図書館定義フィールド (LDF) に値があった場合には修正されずに残ってしまいます。

(3)所蔵レコードの削除

雑誌所蔵の登録作業において、既存の所蔵レコードをいったん削除し、新しいデータに総入れ替えをしたい場合などにこの機能を用いることができます。

この機能の使用方法については、5.3 で説明します。

5.2 配置コードの一括付け替え

図書館・室の統合や図書の管理換等があった時など、総合目録データベースに登録されている所蔵レコードの配置コードを一括して付け替えたい場合があります。このような時、従来はオンラインの画面から一件一件修正するか、学術情報センターに依頼して作業を行ってもらうしか方法がありませんでした。

CATP-Autoの一括処理用アップロードファイル生成機能を使えば、この作業をユーザー側でバッチ的に行うことができます。これは、一定の条件で所蔵レコードを検索・ダウンロードし、登録用アップロードレコードを生成する機能です。所蔵レコードの登録を行うためには、所蔵レコードを一意に同定する検索データが必要ですが、この機能により検索データを含んだアップロードファイルを作成することができます。



例えば、当該参加組織の配置コード '図' の所蔵レコードを、すべて配置コード '理工' に置き換えたい場合、以下のようにします。

まず、処理対象となる所蔵レコードを検索、ダウンロードし、一括処理用アップロードファイルを生成します。そのためのアップロードファイルは、例 7 のようになります。

【例 7】

```
*getupdate* LOC;図 LOC=理工
```

動作指示コマンド `*getupdate*` は、指定された検索データ（配置コードが '図'）によって所蔵レコードの検索を行い、検索結果に登録データ（配置コードが '理工'）の指示を加えて一括処理用アップロードファイルを生成します。

実行すると、例 8 のような一括処理用アップロードファイルができます。

【例 8】

```
ID:CA0000023639 LOC=理工 FANO=FA002065  
ID:CA0000098765 LOC=理工 FANO=FA002065  
ID:CA0000098987 LOC=理工 FANO=FA002065
```

この一括処理用アップロードファイルでは、所蔵レコードを一意に同定できる検索キー（所蔵 ID）が取得されています（参加組織 ID も取得されていますが、登録処理には必要ありません）。次に、このファイルをアップロードファイルのフォルダに移動し、必要であればファイル名も変更しておきます。これをアップロードファイルとして実行すれば、当該参加組織の配置コード '図' の所蔵レコードは、すべて配置コード '理工' に修正されます。

なお、ここに示したのは単純な配置コード一括修正の例であり、複数の配置コードを統合する場合や、一つの配置コードを複数に分割する場合には、より複雑な処理を行わなければならないことがあります。その例については、5.4 で説明します。

5.3 所蔵レコードの一括削除

所蔵レコードを削除したい場合には、動作指示コマンド `*delete*` を用います。例 9 に、アップロードレコードの例を示します。

【例 9】

```
*delete* ID:CA0000098765
```

このように、`*delete*` コマンドを使うときは、所蔵 ID を検索データに指定しなければなりません。

しかし、あらかじめ個々の所蔵 ID がわからない場合、例えばある配置コードの所蔵レコードをまとめて削除したい場合などは、5.2 のように、まず一括処理用アップロードファイルを作成することができます。次のように、動作指示コマンド `*getdelete*` によって、一括削除用のアップロードファイルを作成します。

【例 10】

```
*getdelete* LOC;書庫
```

例 10 のアップロードファイルを実行すると、CATP-Auto は当該参加組織の配置コード ‘書庫’ に該当する所蔵レコードを検索・ダウンロードし、削除用の一括処理用アップロードファイルを生成します。

【例 11】

```
*delete* ID:CA1234567890  
*delete* ID:CA2234567890  
*delete* ID:CA3234567890
```

例 11 の一括処理用アップロードファイルを、あらためてアップロードファイルとして実行すると、当該所蔵 ID (= 配置コード ‘書庫’) の所蔵レコードがすべて削除されます。

なお、いったん所蔵レコードを削除してしまうと、元に戻すことはきわめて困難になります。誤って削除してしまった場合には、削除用の一括処理用レコードの生成と同時に出力される「一括処理前保存ファイル」によって、削除前のデータの内容を確認することができますが、システムではそれ以上のサポートは行っていません。他のツールなどで一括処理前保存ファイルを整形し、新規登録のためのアップロードファイルを作成して、再度実行する必要があります。一括削除作業を行う際には、事前にアップロードファイルの内容を確認するなど、各図書館の責任の元に、十分に注意して作業を行ってください。

5.4 応用的な処理を必要とする作業

前項までで雑誌所蔵の一括登録、配置コードの一括付け替え、所蔵の一括削除の方法と、それらの作業で用いる *getupdate*、*delete*、*getdelete* の3つの動作指示コマンドについて説明しました。しかし、これらのコマンドを単純に実行するだけでは処理することのできない作業があります。ここでは、応用的な処理を必要とする作業について、3つ例をあげて説明します。

(1)配置コードの統合

配置コードの統合とは、以下のような処理のことです。

- (a) A と B の複数の配置コードがあって、両者の配置コードを C にする。
- (b) A と B の複数の配置コードがあって、B の配置コードを A にする。

このような場合には、単純に配置コードを修正するだけでは不十分です。修正しようとした配置コードの所蔵レコードが、既にその書誌に存在する場合、エラーとなるからです（総合目録データベースでは、一つの書誌レコードに対して、同一の配置コードを持つ所蔵レコードを複数登録できません）。

これを解決するには、以下の方法が考えられます。

a.方法 1

まず、*getupdate* コマンドを利用して作成した一括処理用アップロードファイルによって、配置コードの一括変更を行ってしまいます。さらに、エラーではじかれた分をもとに、新たに書誌 ID & 配置コードを検索データとした修正用アップロードファイルを作成して、データの追加処理を行います。

この手順で作業を行えば、図書多巻ものの所蔵レコードの統合も可能です。ただし、雑誌所蔵の統合は行えないので注意してください。

なお、修正用のアップロードファイルは、一括処理前保存ファイル、エラーファイルなどを利用して各利用者が作成しなければなりません。

b.方法 2

既存の全所蔵レコードをいったん削除してしまい、図書館データベースから作成した新規登録用アップロードファイルによって所蔵データを再作成します。この場合、総合目録データベースに対応する書誌 ID や配置コードを、あらかじめ図書館データベース側に持っている必要があります。

(2)配置コードの分割

1つの配置コードを2つ以上の異なる配置コードに分割する作業です。この作業を行うには、総合目録データベースに対応する所蔵 ID または書誌 ID & それぞれの所蔵データに対応する配置コードの情報を、図書館データベース側にあらかじめもっていなければなりません。

a.所蔵 ID がわかっている場合

この場合には、作業は比較的容易です。所蔵 ID を検索データとし、新しい配置コードを登録データとしてもつ修正用アップロードファイルを作成し、所蔵レコードの修正処理を行います。

b. 所蔵 ID がわからない場合

この場合には、総合目録データベース中の当該配置コードの所蔵レコードをいったんすべて削除する必要があります。削除後、図書館データベースから作成した書誌 ID & 新しい配置コードを検索データとした新規登録用アップロードファイルによって、データの再登録を行います。

(3) 図書所蔵レコードの再作成

雑誌所蔵の登録作業については、以前から、既存所蔵レコードをいったんすべて削除し、図書館データベースの所蔵データを元に一括再登録をする作業が、学術雑誌総合目録の全国調査時などに行われていました。この作業は、図書館データベースと総合目録データベースの整合性を維持するには有効です。CATP-Auto の一括削除・一括更新機能を使えば、同様の作業を図書所蔵に対しても行うことが可能です。

この作業を行うにあたっては、図書館データベース側の各所蔵データに、総合目録データベースに対応する書誌 ID、配置コードを持っている必要があります。

検索のロジックは雑誌所蔵一括更新の場合と同じですが、データの登録・修正にあたっては、書誌ルートの場合と同等のロジックで VOL の処理が行われます。詳しくは、4.1 (3) を参照してください。所蔵ルートにおいては、書誌レコード中の VOL の値を利用することができません。複数の出版物理単位が含まれる所蔵レコードの登録・修正を行う場合には、以下のようにアップロードファイルに所蔵登録用の VOL を指定する必要があります。

【例 12】

BID:AA14423021 LOC;書庫 VOL=上巻 CLN=330.4 RGTN=554689

例 12 では、書誌 ID と配置コードを検索データとして使い、VOL 及び請求記号 (CLN) 登録番号 (RGTN) を登録データとして指定しています。

所蔵ルートで VOL の登録を行う場合には、書誌レコードにおける当該 VOL の存在の有無にかかわらず、アップロードファイルに指定した登録用 VOL がつねに登録されますので、慎重な運用が必要です。

なお、図書所蔵レコードに対しても *delete* コマンドを利用することができますが、VOL 単位でのデータ削除は行えませんので、注意してください。